

第3学年 国語科学習指導案

期 日 平成28年11月2日(水) 5校時
場 所 3年1組教室
児 童 男子8名 女子9名 計17名
指導者 橋場 和江

- 1 単元名 「考えの進め方をとらえて、科学読み物をしょうかいしよう」(読むこと)
主な学習材 「クモは、なぜ、じぶんの巣にひっかからないの?」(「科学なぜどうして三年生」より)
「ありの行列」(光村図書3年下)

【目指す児童の姿】

- 科学読み物を紹介するために、文章を引用したり要約したりすることができる。
- 段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読み、論の進め方を適切に捉えることができる。

【取り入れる主なUDの視点】

- 1-③ 興味関心を高める工夫
- 1-⑨ 満足感・達成感を実感できる活動を工夫
- 4-④ 実態に合わせた対応

2 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、「学習の仕方の違い」によって戸惑うことが少なく、新しい学習方法でも興味をもって意欲的に取り組むことができる。しかし、「不注意・多動」で授業への参加が比較的難しい児童がおり、年度当初より刺激量の調節や、場や時間の構造化を図ってきた。また、理解段階においては、「曖昧なものへの弱さ」や「複数並行作業の苦手さ」が見られるとともに、習得段階においては、「定着の不安定さ」が見られる。よって、どの学習においても、できるだけ焦点化した授業を展開するようにしている。

国語科の説明的文章の学習においては、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見の関係を考えながら文章を読む力」を身に付けるために、「言葉であそぼう」「こまを楽しむ」「自然のかくし絵」を通して「問い」と「答え」を捉えて「段落」に気を付けて読んだり、「すがたをかえる大豆」を通して文章全体の組み立て方や段落ごとの書き方などに注意して読んだり、説明文を書いたりする活動を行った。レディネステストの結果、「はじめ」「中」「終わり」を捉えることはできていたが、段落相互の関係を捉えながら読み進めることのできる児童は多くなかった。また、これまで学習してきた説明文は解説型であるのに対し、本単元では論説型の文章を通して学習を進める。そこで、本単元では、指示語や接続語に着目させながら論の展開を押さえるようにする。また、科学読み物を紹介するという目的で、文章を引用したり要約したりすることができるような活動をすることにより、文章構成を捉え、適切に引用や要約をする力を付けたいと考えた。

(2) 学習材について

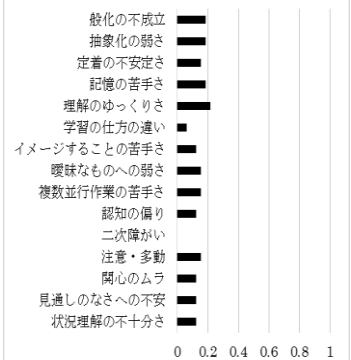
本学級の児童の実態から、本単元の学習材を2つとした。

第一学習材「クモは、なぜ、じぶんの巣にひっかからないの?」は、久道健三著「科学なぜどうして三年生」の一項で、全12文からなる短い文章である。尾括型の三段構成であることを捉えやすく、また、段落相互の関係を捉えるのに適した文章である。

第二学習材「ありの行列」は、観察・実験を行い、仮説・推論を立て研究を深めるという論説的要素を含んだ説明文である。文章構成は、第一学習材と同様、尾括型の三段構成で、問題提起—実験・観察、研究—結論の展開になっている。また、文末表現「—ました。」と「—です。」「—ます。」に着目すると、事実と意見の記述の違いについて理解することができ、研究者の行動や考えを捉えやすい表現になっている。

両学習材は、ともに、児童の身近にあるものを扱っている。しかし、新しい発見がある。本単元の学習で論の進め方を適切に捉えたり、文章を引用したり要約したりする力を付けるとともに、他の身近な動植物や食べ物、自然現象の不思議について書かれた本を読む態度を育てるのにも適した学習材と言える。

アセスメント結果(3年1組)



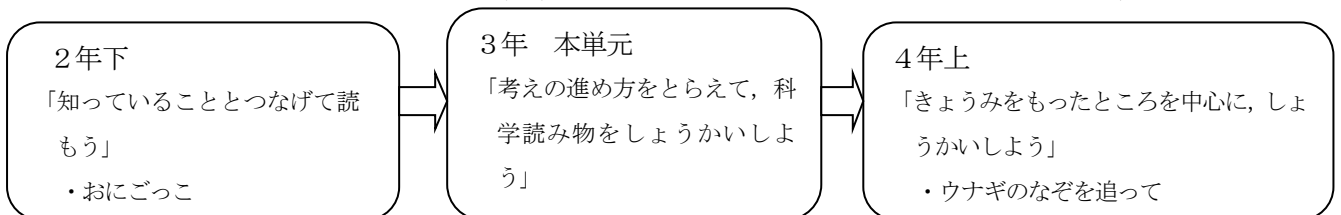
(3) 指導にあたって

- 「定着の不安定さ」を解消するために（4-④ 実態に合わせた対応）（1-⑨ 満足感・達成感を実感できる活動を工夫）
 - ・学習材を二つ用意し、読み取りが平易なものから複雑なものへと読み進める。
 - ・評価ルーブリックを作成し、ねらいを明確にしながら授業を進めるとともに、児童が変容を確かめられるようにする。
- 文章構成をとらえながら読むことができるように（4-④ 実態に合わせた対応）
 - ・文章構成を可視化する。（「大部屋」「小部屋」という用語に置き換える。）
 - ・学習したことを振り返ったり生かしたりすることができる掲示を用意する。
- 目的に応じて文章を引用したり要約したりすることができるように（1-③ 興味関心を高める工夫）
 - ・目的をミニビブリオバトル（知的書評合戦）とする。
 - ・プレゼンテーションの要素を限定する。
- 段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読み、論の進め方を適切に捉えることができる。
 - ・文末表現から事実と意見を区別して読ませ、研究者の行動の意図を捉えさせる。
 - ・指示語や接続語の指導を繰り返し行う。
 - ・「ありのふしぎ」という視点だけでなく、「研究者の行動や考え方」という視点からも内容を読ませる。
 - ・問いに対する答えを明らかにするような読み進め方をする。
 - ・読み取ったことを言い換えさせたり、説明に付け加えさせたりすることにより、より具体的に内容を読み取るようにする。

3 単元の指導目標と評価規準

項目	目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	科学読み物に興味をもち、進んで読もうとする。	科学読み物に興味をもち、進んで読もうとしている。（音読や読書の様子、付箋）
読む能力	段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読み、論の進め方を適切に捉えることができる。 (1) イ	段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読み、論の進め方を適切に捉えている。 （「説明文の家」の記述、発言）
	科学読み物を紹介するために、文章を引用したり要約したりすることができる。 (1) エ	科学読み物を紹介するために、文章を引用したり要約したりしながらプレゼンテーションメモを書いている。（プレゼンテーションメモの記述）
	自分の考えと友達一人一人の捉え方に違いがあることに気付くことができる。 (1) オ	自分の考えと友達の考えの類似点や相違点に気付いている。 （ワークシートの記述、感想の交流）
言語についての知識・理解・技能	指示語と接続語の役割を理解することができる。（1）イ（ク）	指示語や接続語に着目し、文章構成を捉える手がかりとしている。 （発言、ワークシートの記述）

4 単元の関連と系統 <説明的な文章の解釈、自分の考えの形成及び交流 読むこと（1）イ、エ>



5 学習指導計画（全8時間）


【指導過程】	【主な学習活動】	【言語活動】	【取り入れるUDの視点】
<p>第1次 学習計画を立てる。 (1時間)</p>	<p>① 単元で付けたい力と「ビブリオバトル」について知り、学習計画を立てる。 (1) 評価ルーブリックでついている力とつける力を確かめる。 (2) ビブリオバトルを見る。 (3) 科学読み物を読み始める。</p>	<p>◆ 科学読み物限定のミニビブリオバトルをするために必要に応じて文章を要約する。</p>	<p>1-③ 興味関心を高める工夫</p>
<p>第2次 第一学取材を読み、文章構成や指示語、接続語について学習する。(1時間)</p>	<p>② 「クモは、なぜ、じぶんの巣にひっかからないの？」を「3つの大部屋読解法」で読む。</p>		<p>4-④ 実態に合わせた対応</p>
<p>第3次 第二学習材を読み、ミニビブリオバトルの原稿を作る。 (4時間)</p>	<p>③ 「ありの行列」を「はじめ」「中」「終わり」に分け、中の見出しを考える。 ④ 形式段落毎に小見出しを考える。 ⑤ 論の展開を押さえる。(その1) ⑥ 論の展開を押さえる。(その2) (本時)</p>		<p>1-⑨ 満足感・達成感を実感できる活動を工夫</p>
<p>第4次 ミニビブリオバトルをし、学習を振り返る。(2時間)</p>	<p>⑦ ミニビブリオバトル(自分が読んでいる本)の原稿を作る。 (1) 自己紹介 (2) 本の基本情報(タイトル, 著者名) (3) 簡単な内容(「問い」「答えの見つけ方」「答え」など) (4) おすすめポイント (5) 一言まとめ ⑧ ミニビブリオバトルをする。 (1) グループ×2 (2) 全体 (3) 単元の振り返り</p>		<p>1-③ 興味関心を高める工夫</p>

6 本時の指導（6／8）

(1) 目標と評価規準

<p>研究の意図と結果を読み取り、必要な部分を要約することができる。読 (1) イ, エ</p>	
<p>具 体 の 評 価 規 準</p>	
<p>A</p>	<p>B</p>
<p>ウィルソンが細かに研究したわけと研究結果を捉え、要約し、感じたことを書いている。(ワークシートの記述)</p>	<p>ウィルソンが細かに研究したわけと研究結果を捉え、必要な部分を要約している。(ワークシートの記述)</p>

(2)展開

段階	学習活動	学習内容	指導上の留意点 (○) UDの視点による手だて (★・) 評価
導入 (3)	<p>1 学習課題を解決する見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ウィルソンは、どのようにして答えを見つけたのだろうか。② </div> <p>(1) 前時を想起する。 (2) 課題解決までの見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① 「小部屋 - 中3」を詳しく読む。 ・体の仕組み研究 ② 「問い」から「答え」までを見通す。 </div>	<p>○「さとうひとつまみ実験 (中1)」と「石でさえぎり実験 (中2)」から、ありが、地面に何か道しるべになるものをつけておいたのではないかと考えたことを確認する。</p> <p>○順接の接続語 ・そこで ○まとめの接続語 ・このように</p>	<p>★1-③ 興味関心を高める工夫 4-④ 実態に合わせた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「説明文の家※」を使って意味段落を捉えさせる。 ・第一学習材を「説明文の家」で表したものを掲示しておく。 ・順接、まとめの各接続語の役割を確認する。
展開 (35)	<p>2 学習課題を解決する。 (1) 「体の仕組み研究」から、わかったことを読み取る。 (2) ありの行列ができるわけを読み取る。 (3) 「問い」から「答え」までを見通し、論の展開を確認する。</p> <p>3 課題の答えをウィルソンの吹き出しとしてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  ぼくはね、初めに実験と観察をしたんだ。その結果から、ありが地面に何か道しるべになるものをつけておいたのではないかと考えたんだ。 そこで、ありのからだの仕組みを細かに研究してみたんだ。すると、おしりのところから、においのあるじょうはつしやすいえきを出すことがわかったんだ。 これらの実験・観察・研究から、ありが、においをたどって、えさと巣を行ったり来たりすることで行列ができることをつきとめたんだよ。 </div>	<p>○順接の接続語 ・すると ○指示語 ・この研究から、それは ○文末表現の違い ・～ました。 ・～です。～ます。 ・～のです。 ○理由の接続語 ・そのため ○事実と意見の区別</p>	<p>★4-④ 実態に合わせた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験と観察、研究から分かったことを「説明文の家」で確認する。 ・ワークシートは選択できるようにする。 ・ありをペープサートを使って動作化しながら、言葉と動きが一致するようにする。 ・論の展開に着目させるために、ウィルソンの吹き出しを使う。 <p>★1-⑨ 満足感・達成感を実感できる活動を工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィルソンになりきって、論の展開を話させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <評価> 論の展開に合うように、必要な文を書き抜けたか。(ワークシート) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕がある児童には、感想を書かせる。
終末 (7)	<p>4 学習を振り返る。 (1) 先生から (2) 自分ほめほめ (3) 友達ほめほめ 5 次時の学習確かめる。</p>	<p>○今後の読みに活かせること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論の展開を読み取るには、接続語や「したこと」「考えたこと」に気を付けて読むとよい。 	<p>★1-⑨ 満足感・達成感を実感できる活動を工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続志の使い方を振り返るワークをする。 ・自己評価だけでなく、他者からも認められる場を設定する。

※説明文の家；筑波大学附属小学校 二瓶弘行先生の実践

